

インフォシス、Everest Group の「PEAK Matrix® for Cloud-native Application Development Service Providers 2020」でリーダーの地位を獲得

バンガロール (インド) – 2020 年 11 月 13 日: 次世代デジタル・サービスおよびコンサルティングの世界的リーダーである[インフォシス](#) (NYSE: INFY) は、本日、Everest Group の「PEAK Matrix® for Cloud-native Application Development Service Providers 2020」でリーダーに選出されたことを発表しました。インフォシスは、組織のデジタル能力の推進とコア・システムのモダナイゼーションを支援し、デザイン主導型の体験をアジャイルな方法で提供する能力によって高い評価を受けています。深い領域専門知識と経験に支えられ、インフォシスは、[Infosys Cobalt](#) ブランドの [Infosys PolyCloud Platform](#) や [Infosys Cloud Native Development Platform](#) を活用して、顧客のクラウドネイティブ・ジャーニーを簡略化、高速化しています。

Everest Group はサービス・プロバイダー 21 社を対象にアセスメントを実施し、多段階の調査分析プロセスを経て、クラウドネイティブ・アプリケーション開発分野における各社のビジョンと能力を評価しました。インフォシスのクラウドネイティブ開発サービスには、API、マイクロサービス、PaaS、可観測性、セキュリティ、DevSecOps が含まれます。

今回の評価結果では、以下の点が主に強調されています。

- ・ デザインシンキングアプローチと顧客との合同ワークショップにより PoC の構築と実施を支援し、顧客の確信を醸成
- ・ 充実したツールのセットで、クラウドネイティブ・エンゲージメントの予見可能性と整合性を実現
- ・ 各種産業バーチャルを網羅する強力な領域専門家プールが、顧客のビジネスのすぐれた理解でクラウドネイティブ・ソリューションにコンテキストを与える
- ・ Infosys のスキルアップへの取り組みにより、一貫した高品位のデリバリーチームの提供を促進

- ・ ISV およびクラウドサービス・プロバイダーとの幅広いパートナーシップによりソリューションの共同開発を実施し、顧客に提供する製品サービスを強化

「急速に変化する市場条件から、企業は前例のないプレッシャーに晒される中、自らを差別化し、よりアジャイルでスケーラブルな、費用効果の高いアプリケーション開発の手段を模索しています。こうした状況に対応するために、企業はますますクラウドネイティブな開発への依存度を高めつつあります」と、**Everest Group** の**プラクティス・ディレクターである Alisha Mittal 氏**は述べ、こう続けます。「インフォシスは、[Infosys Cobalt](#) が提供するサービス、ソリューション、プラットフォームを活用して企業のクラウド・ジャーニーを加速し、顧客のレジリエントなクラウドネイティブ・アプリケーションの開発を可能にしています。またインフォシスの顧客は、同社の人材育成への取り組み、デザインシンキングアプローチ、そして各業界専門家を高く評価しています。」

「クラウドネイティブ・アプリケーションとそのテクノロジーは、革新とレジリエンスを推進し、明確に認識できるビジネス価値を顧客に提供する手段です。対応力が高くスケーラブルで高い耐障害性を備えるアプリケーションを、パブリック、プライベート、またはハイブリッド・クラウドで構築・実行したい企業にとって、これは理想的なアプローチなのです」と、**インフォシスのエグゼクティブ・バイスプレジデントである Shaji Mathew** は述べています。「今回のレポートで当社がリーダーとしての地位を獲得したことで、クラウドネイティブ・ソリューションを各種産業バーチャルの顧客のビジネスに特化してコンテキスト化するにあたり、Infosys Cobalt が提供する製品サービスに支えられた深い領域専門知識を当社が備えていることが裏付けられました。」

Everest Group の「**PEAK Matrix® for Cloud-native Application Development Service Providers 2020**」には[こちら](#)からアクセスできます。

インフォシスについて

インフォシスは次世代デジタル・サービスとコンサルティングのグローバル・リーダーとして、世界 46 か国でお客様のデジタル変革を実現しています。約 40 年にわたるグローバル企業のシステム・業務管理の実績に基づき、専門家としてお客様の



デジタル・ジャーニーを推進します。変革の優先順位の判断において、当社では企業が AI を導入したコアを利用できるようにしています。また、ビジネスにアジャイル手法とデジタル化を大規模に導入することで、かつてない高いレベルのパフォーマンスと顧客満足度を提供いたします。当社の常に学ぶ姿勢は、デジタル・スキル、専門知識、および当社のイノベーション・エコシステムから創出されるアイデアの確立と移転を通じて、お客様の継続的改善を実現しています。

インフォシス (NYSE: INFY) が次のステージへと進む企業を支援する方法については、www.infosys.com をご覧ください。

セーフハーバー条項

本リリースに掲載されている報告書の一部は、当社の将来的な成長を予測するものであり、多くのリスクや不確定要素が介在しているため、実績と大きく異なる場合があります。このようなリスクと不確定要素には、収益の変動、当社の成長管理能力、費用効率に影響する可能性のある IT サービス分野における競争の激化、インドにおける人件費の高騰、高い技能をもつ専門的な人材を確保する当社の能力、固定価格・固定時間による契約における時間や経費の超過、顧客の集中化、出入国制限、業界セグメントの集中化、国際業務を管理する当社の能力、当社の主力分野であるテクノロジーの需要低下、通信ネットワークの崩壊あるいはシステムの故障、企業買収を成功させる当社の能力、当社サービス契約に対する損害賠償責任、戦略投資した企業の業績、政府援助の打ち切り、政治不安および地域紛争、インド国外での増資・企業買収に対する法的制限、当社知的所有権の不正使用、この業界に影響を与える経済情勢などが考えられます。当社の将来的な業績に影響すると思われるその他リスクについては、2012 年会計年度（2013 年 3 月 31 日付）年次報告書（Form 20-F）と 2013 年第 1 四半期（2013 年 4 月－7 月期）（Form 6-K）を含め、米国証券取引委員会へ提出された当社報告書に詳細に記載されています。これらの報告書は、www.sec.gov、でご覧いただけます。インフォシスは、米国証券取引委員会や当社株主への報告書など、書面および口頭により将来の展望を適宜発表する場合がありますが、当社により随時発表された将来の展望について更新する義務を負わないものとします。

お問い合わせ先

インフォシスリミテッド 日本支店
マーケティング本部長 安藤 jo_ando@infosys.com